

## 主題：神のエコノミーと分与

メッセージ 11

神聖な造り変えの中で、神聖な同形化のために、神聖な三一の分与を享受する（2）

聖書：Ⅱコリント 5:14-15. ローマ 14:7-9

I. わたしたちが神聖な三一の分与を享受するのは、主のくびきを負い、彼から学ぶこと  
によってです——マタイ 11:28-30. 参照、エペソ 4:20-21：

- A. 主のくびきを負うとは御父のみこころを取ることです。御父のくびきは負いやすく、  
良く、親切で、柔和で、穏やかで、喜ばしいのです。それは困難で、激しく、鋭く、  
苦いのとは対照的です——ヨハネ 4:34. 5:30. 6:38. イザヤ 7:14-15. 参照、ヨハネ 6:57.
- B. 主の荷とは、御父のみこころを遂行する彼の働きです。そのような荷は軽く、重く  
はありません——Ⅱコリント 2:13. ローマ 14:17-18. ピリピ 2:12-16.
- C. わたしたちが主のくびきを負い、彼から学ぶことによって持つ安息は、わたしたち  
の魂のためです。この内側の安息は、律法や宗教の下にある、あるいはどのような  
働きや責任の下にある労苦や重荷からも自由にされることを指すだけでなく、完全  
な平安と十分な満足をも指しています——マタイ 12:8. イザヤ 56:2. 58:3. 出  
31:13-14.

II. わたしたちが神聖な三一の分与を享受するのは、キリストに生きることによってです  
——Ⅱコリント 5:14-15. ローマ 14:7-9：

- A. キリストに生きることが意味するのは、わたしたちが絶対的に彼の制御、導き、統  
治の下にいることによって、彼に喜ばれようと懸命に努めること、唯一、彼の目的  
と目標を顧慮することです——Ⅱコリント 5:9.
- B. キリストに生きるとは彼をわたしたちの生活の目標とすることです。それが意味す  
るのは、わたしたちが主の制御、導き、統治の下にいること、彼の定められた御旨  
を完成し、彼の願いを満足させ、彼が意図することを完成することです——9 節。
- C. わたしたち自身に生きることが意味するのは、わたしたちが自分自身の制御、導き、  
統治の下にいること、自分自身の目的と目標を顧慮し、自己をわたしたちの生活の  
目標とすることです。
- D. わたしたちはキリストに生きるなのであって、自分自身に生きないのは、「キリスト  
の愛がわたしたちに押し迫っている」からです。これは、わたしたちのための彼の  
死を通して、十字架上で現された愛です——14-15 節：
  - 1. 押し迫るというギリシャ語の言葉が意味するのは、「四方から押しつける、身動  
きのできないように押さえつける、強制的に制限する、限られた範囲に詰め込む、  
（壁に挟まれた細い道にいるように）一つの路線、目的へと閉じ込める」という  
ことです。
  - 2. わたしたちは主イエスを愛していますが、常に進んで彼の道を取ることがないので、彼の愛はわたしたちを制限し、わたしたちを狭い道に詰め込み、唯一の目標、  
すなわちキリストご自身に向かって閉じ込めます——ピリピ 3:14.

3. キリストの活気づける犠牲的な愛に押し迫られることは、神を活気づけて、わたしたちがキリストの大使となり、人を神に和解させることを通して人を活気づけることができるようにすることです——士 9:13. II コリント 5:18-20. 雅 1:2. 参照、4:10。

E. わたしたちがキリストに生きることは、彼がわたしたちの主であり、死んでわたしたちを買ったこと、わたしたちが彼に属していることの証しです——ローマ 14:7-9. I コリント 6:19-20. I ペテロ 1:18-19。

**III. わたしたちが神聖な三一の分与を享受するのは、霊にしたがって歩く（生き、行動し、存在する）ことによってです。それは命の霊、神の霊、キリストの霊とミングリングされたわたしたちの霊です——ローマ 8:4, 2, 9, 16 :**

A. 霊によって生きるとは、わたしたちの命を霊に依存させ、霊によって規制され、霊をわたしたちの命の本質とすることです。霊によって歩くとは、わたしたちの日常生活における実際的な生活と行動が霊によって導かれ支配されるようにし、霊をわたしたちの道のための行程として、わたしたちが神の定められた御旨を完成し、地上でのわたしたちの生活のために彼の目標に到達することができるようにすることです——ガラテヤ 5:16, 25。

B. 霊によって歩く者は神を尊び、霊を供給する者は人を尊びます——士 9:9. II コリント 3:6, 8. サムエル上 2:30. ヨハネ 12:26。

C. 主はわたしたちの魂を回復する（復興し造り変える）ことによって、またわたしたちを導いて、神聖な命の流れの中で義の途を霊にしたがって歩ませることによって、わたしたちを牧養します——詩 23:3. ローマ 8:4. 啓 7:17. 22:1。

D. わたしたちの霊に注意を払い、霊の感覚を顧慮することによって、わたしたちは霊にしたがって歩き、命の霊の法則は自動的に自然にわたしたちを、罪と死の法則から自由にします——ローマ 8:2, 4, 6。

E. わたしたちは霊によって歩き、わたしたちの霊の中の霊によって奉仕するとき、肉の欲を満たさず、自動的に自然にその霊の実を結びます——ガラテヤ 5:16, 22-25. ピリピ 3:3. ローマ 1:9。

F. わたしたちは霊によって歩いてその霊の実を結ぶか、それとも肉によって歩いて肉の働きを現すかのどちらかの可能性があります——ガラテヤ 5:16-26. 6:12. ピリピ 3:3。

G. わたしたちは霊によって歩くなら、自動的に肉と、肉の背後に潜んでいる悪魔を打ち破ります。わたしたちがこのようにして肉に対する戦いに打ち勝つとき、キリストを表現するという神の定められた御旨は達成されます——出 17:8-16。

**IV. わたしたちが神聖な三一の分与を享受するのは、その霊へとまくだることによってです——ガラテヤ 6:7-10 :**

A. その霊へとまくだことは、その霊の目的を達成しようともくろんでまくだことを意味します。これはその霊をわたしたちの目標とすることです :

1. 実は、霊によって歩くとはその霊へとまくだことです——5:16。

2. わたしたちは命と生活において、その霊を得ようとし、その霊をわたしたちの目標としなければなりません——6:8。

3. 神のエコノミーは、わたしたちにその霊としてのご自身を与えることです。わたしたちがすべてを含む霊、すべてを含む三一の神を、わたしたちの唯一の永遠の目標とすること以上に、神にとって喜ばしいことはありません—— 3:5 前半, 14. 参照、ピリピ 2:13。

B. 肉へとまぐことは、肉の目的を達成しようともくろんでまぐことを意味します。これは肉を目標とすることです：

1. 肉とその霊の間の中立の立場はありません。わたしたちの目標はどちらか一つです——ローマ 8:6。
2. わたしたちが行なうあらゆることは、わたしたち自身の肉へとまぐかその霊へとまぐかであり、わたしたちのまぐことはすべて、肉から腐敗を刈り取るか、その霊から永遠の命を刈り取るかです——詩 126:5. 箴 22:8 前半. ホセア 8:7 前半。
3. もしわたしたちが肉にしたがって生きるなら、クリスチャンの働きとして行なうことに効果はありません。重要であるのはわたしたちの働くことではなく、まぐことです——参照、マルコ 4:14. 申 22:9。

C. わたしたちの目標がその霊であるとき、わたしたちは他の人にとって、また諸召会にとって命の供給となります——ガラテヤ 6:10. II コリント 3:6。

D. わたしたちがその霊へとまぐとき、その霊はわたしたちを新創造とします：

1. 新創造とは、神の選びの民がすべてを含む霊を彼らの目標とし、彼を得ようとし、彼と一つ霊となり、その結果、神聖な要素が彼らの中へと注入されて、彼らを再構成し、新しくすることです——ガラテヤ 6:14-15。
2. 永遠の命の究極的完成である新エルサレムは、究極的な結果であり、わたしたちがその霊へとまぐことの刈り取りです—— 8 節後半. ヨハネ 4:14 後半. 啓 22:1-2。
3. 主は彼の回復の中で召しを發して、その霊をわたしたちの目標とし、あらゆることで彼へと生きるようにしており、それは永遠の命の刈り取りがあるためです。わたしたちがそのような命における栄光の目標を持つとは、何とすばらしいことでしょう！

V. わたしたちが神聖な三一の分与を享受するのは、神聖な三一の有機体の中で生きて、神聖な三一の分与にあずかることによります——ヨハネ 16:13-15：

A. 神聖な三一の有機体には三つの面があります：それはヨハネ第 14 章 2 節にある御父の家（召会）、第 15 章 1 節から 5 節にあるぶどうの木の枝（キリストのからだの構成要素）、第 16 章 21 節にある新しく生まれた団体の人（新しい人）です：

1. 三すべては召会を意味し、召会がキリストの死と復活を通して彼によって生み出された栄光の増し加わりであることを見せています—— 12:23-24。
2. この有機体は三一の神の一の中で、また彼の神聖な分与の中で維持される必要があります。ですから、主は特にこの事柄のために、ヨハネ第 17 章における彼の結びの祈りの中で祈ったのです。

B. ヨハネ第 17 章における主の祈りは、キリストのからだのすべてを含む一、すなわち三一の神にある信者たちの一のためでした：

1. 一の第一の層は、御父の御名の中の、御父の神聖な命による一です—— 6-13 節。
2. 一の第二の層は、聖別する言葉の実際における一です—— 14-21 節。

3. 一の第三の層は、手順を経て合併された三一の神の表現のための、神聖な栄光における一です—— 22-24 節。

VI. わたしたちが神聖な三一の分与を享受するのは、わたしたちの霊の中で、手順を経た三一の神をもって満たされることによって、またキリストの言葉をわたしたちの内に豊かに住ませることによってです——エペソ 5:18. コロサイ 3:16 :

- A. わたしたちが霊の中でその霊をもって満たされるなら、その結果は正当なクリスチャン生活、召会生活、個人の生活、家庭生活であり、神聖な属性がわたしたちの人性の美德となった結果としての、霊で満たされた倫理を伴っています——エペソ 5:18-6:9. 4:30. I テサロニケ 5:19。
- B. コロサイ人への手紙は、わたしたちのかしらまた命としてのキリストを中心としています (1:18. 3:4)。彼がご自身の頭首権を行使して、彼の豊富をわたしたちに供給する道は、彼の言葉がわたしたちの内に豊に住むことを通してです。ですから、わたしたちはこう祈る必要があります、「主よ、わたしの全存在をあなたとあなたの言葉にささげます。わたしの内なる存在のあらゆる部分をあなたに近づけます。主よ、わたしの内なる存在をあなたご自身とあなたの言葉のためのホームとします」。
- C. わたしたちは霊の中でその霊をもって満たされ、キリストの言葉をわたしたちの内に豊かに住ませて、恵みと真理の中で新しい人に符合する命を生き (エペソ 4:24, 29, 21)、愛と光の中でキリストの妻に符合する命を生きます (5:2, 8-9, 13-14, 22-25)。